



#リスペクト

<https://ariake-chu.koto.ed.jp/>

学び続ける人 心豊かで、思いやりの有る人 明るく、健やかな人

令和8年 9月30日

江東区立有明中学校

校長 西川 諭

No. 6

「みんな違っていい」の、その先へ。みんなで考える学校でいたい～#リスペクト～

●9月25日、文部科学省から「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ(案)」が示されました。

学習指導要領は、学校で何を、どのように学ぶのか、その大きな方向を示すものです。

今回の案では、今後の学校教育を考える上で、

「主体的・対話的で深い学び」の実装

「多様性の包摂」

「実現可能性の確保」

という三つの方向が示されています。

その中で、今回は「多様性の包摂」について、少し考えてみたいと思います。

●多様性というと、よく、「みんな違っていい」という言葉が聞かれます。

もちろん、それはとても大切なことです。

一人一人の違いを認め、その人らしさを大切にすることは、学校にとって欠かせません。

ただ、私は、それだけでは十分ではないとも思っています。

例えば、文字を読むことに大きな負担を感じる人がいる。人前で話すことが難しい人がいる。日本語の理解に時間が必要な人がいる。移動に支援が必要な人がいる。

学校が「みんな違っていい」と言っている、授業は全員が同じ速さで読むことを前提にしている。発表は必ず全員の前です。説明の方法は一つしかない。必要な支援を使うことに、周りの理解がない…。

それでは、違いを認めたことにはなっても、**誰もが学びに参加しやすくなったわけではありません。**

「あなたの違いは認めます」と言いながら、学校の仕組みはこれまでどおり、多くの人に合う形のまま。そんなことも起こり得ます。

だからこそ、多様性を考えるときには、**その違いによって、誰かが学びにくくなっていないか。誰かだけが、我慢や努力を多く求められていないか。**

そこまで見ていきたいと思っています。

「違いを認める」から、「違いがあっても参加できる学校をつくる」へ。

私は、そこまで含めて「多様性を大切にすること」なのだと思います。

●そんなことを考えていた中で、先日の生徒会役員選挙がありました。

候補者の演説を聞いていると、多くの生徒から、

「有明中のきまりを見直したい」

という声がありました。

私は、とてもよいことだと思っています。

学校生活も変わります。子どもたちも変わります。社会も変わります。

だから、「このきまりは、今も必要なのだろうか」と考えることは、とても大切です。

●ただ、「これを認めてほしい」「このきまりをなくしてほしい」だけで終わるのではなく、

1 何のためのきまりなのか。(目的)

2 今も必要なのか。(必要性)

3 そのきまりによって、困っている人はいるか。(影響)

4 もっとよい方法はないか。(改善)

そこまで、一緒に考えていきたいと思っています。4つとも大切ですが、特に意識したいのが「3」です。

自分には何でもないきまりでも、別の人にとっては大きな負担になることがあります。その負担は、生徒本人だけでなく、保護者や家庭に生じることもあります。

反対に、自分には少し不便を感じるきまりでも、誰かの安全や安心を守るために必要な場合もあります。

だからこそ、**自分の立場だけではなく、違う立場からも考えてみる。**そこに、みんなで話し合う意味があります。

「有明中のきまり」を見直すことは、単にきまりを減らすことではありません。

必要なきまりなら、その理由を確かめて残す。今の学校に合わなくなっていれば、変える。もっとよい方法があれば、つくり直す。その過程で、自分とは違う考えを聞き、自分の考えも見直してみる。**それ自体が、学校での大切な「深い学び」になっていくのだと思います。**

そして、**みんなで考え、その意味を確かめたきまりは、みんなで大切に守っていく。**

「違いを認める」だけでなく、「違いがあっても参加できる」。

そして、「その違いから互いに学べる」。

有明中学校を、そんな学校にしていきたいと思っています。

みんなで考える学校でいたい。

そのことも、#リスペクトの一つだと思っています。

令和 8 年

リスペクト B面

9

9月の振り返り

9月1日発行



F組 調理学習（9月9日）

お好み焼きづくりを通して広がった食の学び

オタフクソースの講師をお迎えし、お好み焼き教室を行いました。キャベツの切り方や生地作り、ひっくり返すタイミング、焼くときのコツなどを教わりながら、一人一人が調理に取り組みました。前日から準備を進め、自分たちで作った出来たてのお好み焼きを味わう中で、調理する楽しさや食への関心を深める機会となりました。



有明まつり（9月12日）

地域の中で輝いた生徒たちの姿

有明ガーデンで行われた第10回有明まつりに、本校の吹奏楽部と生徒会役員が参加しました。吹奏楽部の生徒たちは、日頃の練習の成果を生かし、はつらつとした演奏を披露しました。小さな子どもたちをはじめ、多くの来場者が演奏を楽しみ、会場は温かな雰囲気になりました。また、生徒会役員はボランティアとして、落とし物や迷子への対応など、運営を支える役割を担いました。地域の一員として、それぞれの立場からまつりを盛り上げました。



生徒会役員選挙（9月18日）

自分たちの学校を、自分たちの手でつくる一歩

生徒会役員選挙を行いました。今年度は多くの生徒が立候補し、学校づくりへの意識の高まりを感じました。立候補者は、自分の思いや考えをしっかりと伝え、一人一人が学校の一員として、みんなの学校をつくっていく新たなスタートとなりました。



道徳授業地区公開講座（9月26日）

対話を通して考えた「#リスペクト」

道徳授業地区公開講座では、NPO法人ReBitの方をお迎えし、生徒・保護者・教員とともに、性の多様性を学ぶ意味や、誰もが安心して過ごせる学校について考えました。生徒代表が授業を通して感じたことを自分の言葉で語り、保護者代表からも貴重なご意見をいただきました。全校生徒が対話する時間も設け、一人一人が「違いを大切にすること」や、明日からできる「#リスペクトの行動」について考える機会となりました。



※今号の「授業の様子」はお休みです。